

総合研究大学院大学

○設立の目的

総合研究大学院大学は、全国の大学研究者の共同研究推進について中心的役割を果たしている大学共同利用機関のうち11研究機関との緊密な連携・協力の下に、その優れた人材と研究環境を基盤として博士後期課程の教育研究を行い、新しい学問分野を開拓するとともに、それぞれの専門分野において学術研究の新しい流れに先導的に対応することができる幅広い視野を持つ、創造性豊かな研究者を養成することを目的とする。本学は、全国で初めての学部を持たない大学院だけの大学であり、大学院の課程は後期3年の博士課程で、他大学で修士課程を修了した学生を受け入れる。

○分子生物機構論専攻

基礎生物学研究所は、国立遺伝学研究所及び生理学研究所と共に生命科学研究科を組織し、分子生物機構論専攻を担当している。本専攻は、分子生物学を基盤として動植物に関わる基本的、かつ、高次な生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析する高度な研究者の養成を行う。そのため生体物質の物理化学的解析手法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合して、細胞生物学、発生生物学、制御生物学、形質発現学などにわたる高次な生物現象の解析を中心に高度な教育研究を行う。なお、本専攻を修了した者に授与する学位は博士で、付記する専攻分野は「理学」となる。ただし、分子生物機構論に係る学術的分野を主な内容とする論文については、「学術」となる。本専攻では、開学以来平成8年度までに36名が学位を取得している。分子生物機構論専攻の年度別入学者数・学位取得状況・外国人留学生（国別入学者）数および入学者出身大学別一覧を p.154-155 に示す。

○沿革

- 昭和57年 6月** 国立大学共同利用機関所長懇談会が「国立大学共同利用機関における大学院の設置について」を要望
- 昭和61年 4月** 国立大学共同利用機関所長懇談会が「大学院問題に関するワーキング・グループ」で検討した結果に基づき「総合研究大学院大学の基本構想について」を取りまとめ、岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備調査室及び同創設準備調査委員会を設置
- 昭和62年 3月** 総合研究大学院創設準備調査委員会が「総合研究大学院の基本構想」を取りまとめ
- 5月** 岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備室及び同創設準備委員会を設置
- 7月** 総合研究大学院創設準備委員会が「総合研究大学院大学（仮称）の創設準備について—中間まとめ—」を取りまとめ
- 昭和63年 4月** 岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院大学創設準備室及び同創設準備委員会を設置
- 5月** 国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和68年法律第67号）が公布、施行
- 9月** 総合研究大学院大学創設準備委員会が「総合研究大学院大学の創設準備について」を

取りまとめ

10月 総合研究大学院大学 開学（数物科学研究科，生命科学研究科）初代学長に長倉三郎（理学博士）が就任

平成元年4月 文化科学研究科設置

文化科学・数物科学・生命科学の各研究科において学生受入，授業開始

平成2年1月 初代副学長に廣田榮治（理学博士）が就任

平成3年4月 教育研究交流センター設置

平成4年4月 文化科学研究科国際日本研究専攻・数物科学研究科天文科学専攻・数物科学研究科核融合科学専攻設置

学生受入，授業開始

平成5年4月 数物科学研究科極域科学専攻設置

学生受入，授業開始

平成6年6月 教育研究情報資料センター設置

平成7年2月 葉山キャンパス開校

4月 第2代学長に廣田榮治（理学博士）が就任

平成8年4月 先導科学研究科設置（学生受入は平成11年4月）